

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 3	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b> Effects of fusel oil on animal hangover models. フーゼル油が動物の二日酔いモデルに与える影響	
<b>執筆者</b> Hori H, Fujii W, Hatanaka Y, Suwa Y.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Alcohol Clin Exp Res. 2003, 27(8 Suppl):37S-41S.	
<b>キーワード</b> フーゼル油、ウイスキー、二日酔い、条件付け味覚嫌悪学習	
<b>要 旨</b>  <p>             フーゼル油は二日酔いなどの有害な副作用があることが報告されているが、フーゼル油と二日酔いの関連性については十分には知られていない。本研究ではフーゼル油とアルコール飲料中に含まれるそれらの成分の効果について、動物の二日酔いモデルを用いて検討した。エタノールとフーゼル油を動物(<i>suncus murinus</i>)へ投与し、嘔吐応答を 60 分間測定した。更に、サッカリン溶液摂取後のマウスにエタノールとフーゼル油を投与し、翌日のサッカリン摂取量を測定した。その結果、ウイスキーの揮発成分であるフーゼル油は <i>suncus murinus</i> の嘔吐行動に顕著な変化は観察されなかった。一方、マウスを用いたエタノールによる条件付け味覚嫌悪学習の実験では、エタノールに対する条件付けの嫌悪が、ウイスキーの投与により抑制されることが明らかとなった。酒やワインにおいても条件づけ嫌悪抑制効果が観察されたが、ビールにおいては、ほとんど効果がなかった。ウイスキーにおける嫌悪抑制効果は、特に揮発性画分において顕著であったが、ウイスキーの非揮発性成分はその効果が観察されなかった。また、フーゼル油の成分であるイソアミルアルコール(5mg/kg)、イソアミルアセテート(10, 40 µg/kg)投与もまたエタノール誘導性の味覚嫌悪学習を有意に抑制した。さらに、ウイスキー中のフーゼル油はエタノール誘導性の嘔吐応答に効果は観察されず、これまで報告されているフーゼル油の二日酔い誘発効果に反して、二日酔いの兆候を示す動物モデルで味覚嫌悪行動を抑制した。           </p> <p>             以上の結果は、これまでの結果に反してウイスキー中のフーゼル油は二日酔いを緩和しうること示している。           </p>	